

# 論文審査の結果要旨

論文題名：

中堅看護師が「いきいき」と働くことを支援する研修プログラムの効果検証

申請者氏名：中込 洋美

## 審査の所見

### <論文課題概要>

本論文は中堅看護師が「いきいき」働くことを支援するプログラムを作成し、効果を検証した介入研究である。

### <研究内容>

第1研究では上司が「いきいき」働いていると認めた臨床経験5年以上の看護師を対象に半構造化面接を行い、中堅看護師が「いきいき」働くまでのプロセスと「いきいき」働くための要素を明らかにした。

第2研究では第1研究で明らかにした内容を元に「いきいき」働くために必要な要素を測定する14項目を抽出し、臨床経験5年以上の看護師129名に調査票を配布、そのうち114名の有効回答を得た。探索的因子分析の結果、3因子13項目の尺度を開発した。3因子は「看護の仕事を楽しむ」「成長に向けた主体的な学習行動」「やりがいをもって組織に参画」内的整合性が確認された。

第3研究ではアンドラゴジーと省察的実践を前提とした、リフレクション、上司や仲間からの承認、中堅看護師が「いきいき」働くために必要な要素を取り入れた、1日(420分)の研修プログラムを作成した。500床以下の病院に勤務する臨床経験5年以上の看護師を募集し、介入群31名、統制群35名の2群に振り分けプログラムを実施した。介入前、介入直後、3か月後に第2研究で開発した「いきいき」働くために必要な要素を測定する尺度および、「職業経験評価尺度-臨床看護師用」「日本語版情緒的コミットメント尺度」「自己肯定意識尺度」によって効果を測定した。介入群ではこれらの4つの尺度得点は介入直後に高まり、「日本語版情緒的コミットメント尺度」「自己肯定意識尺度」は3か月後までほぼ維持できていたが、「いきいき」働くために必要な要素を測定する尺度および、「職業経験評価尺度-臨床看護師用」の得点は3か月後まで維持できなかった。統制群では介入前よりも得点が低下またはほぼ維持であった。以上のことから中堅看護師はこの研修プログラムにより、「いきいき」と働くために必要な要素を獲得したので、本研修は有用であった。

### <科学的到達・新規性>

審査では「いきいき」働くために必要な要素を測定する尺度の作成過程、同時に測定した他の尺度との関係性、介入プログラムが依拠する理論的裏付け、介入プログラム上研究参加を管理職に知られていることの影響などについて質疑がなされ、いずれも妥当な回答が得られた。とくに500床以下の中・小規模病院の看護師を対象とし、地域で中核となり医療を担っている中堅看護師の現実的課題に対応した有用な研究である。

### <発展>

研修後 3 か月以上は効果が維持できない点については、研修の継続や職場の看護管理者向けの研修などさらなる工夫で改善できる可能性がある。中・小規模病院の中堅看護師が施設内外の看護師と語り合い、他者から承認を受ける機会づくりを提言した。

以上のことから、本論文は博士（健康科学）の学位授与に値するものとして認める。

**【審査員】**

主査：埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科 教授 鈴木 幸子

副査：埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科 教授 中谷 直樹

副査：東京慈恵会医科大学医学部看護学科 教授 佐藤 紀子